

What's up now!

SJホット・インタビュー



Photo Courtesy of Piny Canyon Inc.

Max Ionata

マックス・イオナータ (テナー・サクソ)

コルトレーンはテナー奏者にとって全てだ。彼の社会に対する貢献度は偉大で現在まで引き継がれている

●インタビュー・文 高木信哉

3月よりスタートしたイタリアン・ジャズの新レーベル「ノーマ・ブル」からの第7弾「ナイト・ウォーク」は、スリル満点のモダン・ジャズ演奏である。カルテット・トレビの主役であるテナー奏者マックス・イオナータに、自身のこと、バンドの話聞いた。

1曲目の〈トレビズ・テーマ〉からカルテット・トレビはパワー全開、そしてジョン・コルトレーンのサウンドの影響を色濃く放っている。「ジョン・コルトレーン・カルテットの影響をこのアルバムから感じてもらったとしても光栄だ。彼らは今までもこれからもずっと世界で一番の

カルテットだからね。コルトレーンは、テナー奏者にとっての全てだ。彼に対して情熱的になることは当然であり、彼のサクソ奏者としての社会に対する貢献度は偉大なもので現在まで引き継がれている。もちろん他にもサクソの巨匠たちから学ぶことも多く、僕はソニー・ロリンズ、スタン・ゲッツやジョー・ヘンダーソンの影響を受けているよ。「Lode 4 Joe」というトリビュート作品も作ったんだよ」

〈グリーンスリーブス〉を演奏したのも、「ジョン・コルトレーンへのオマージュだね。この楽曲は、コルトレーンがいつも演奏していたもので、彼を表すには一番の作品だと思ったんだ」

カルテット・トレビのバンド・メンバーは、「ノーマ・ブル」のプロデューサーのパウロ・スコッティが選んだ。そして幸運にも僕もその一人だったという訳。カルテット・トレビの名前は、このバンドがローマで生まれたもので、この街の有名で美しいシンボルである「トレビの泉」から取ったものなんだ」

マックス・イオナータは、「1972年8月29日にイタリア中南部のキエティという街で生まれた。今、37歳。ミュージシャンになったのは2000年11月からだね。それまでは、故郷のメタル・エンジニアの工場で働いていた。シフト制の仕事だったので、朝、午後、夜とバラバラの時間に働かなければならず辛かった。当時の僕の生活は、仕事以外は全てサクソの勉強と練習にあてていた。若くないという焦りもあり、一日のうち、10時間以上練習していたこともあるよ。日本には残念ながらもまだ行ったことがないけど近々行けるといいね。日本のリスナーの期待を裏切らず満足してもらえるような作品作りに努力していきたい。色々な感情を伝え、抱いてもらえるような演奏をしたいね」